

跡見学園女子大学学芸員課程 平成27年度博物館実習について

跡見学園女子大学 学芸員課程 主任教授
村田 宏

平成27年度の博物館実習の概要はつぎの通りである。

本学の博物館実習は、

- ①春学期における、通常授業時の基礎実習、一日の行程で実施する見学実習
- ②夏期休暇(8月- 9月)期間を中心とした学外の博物館・美術館等での学外実習
- ③秋学期における学外実習事後指導、および花簾記念資料館を使用した事後実習

の三種類からなっている。

年度当初の見学実習は、東京藝術大学大学美術館（台東区上野公園）で行われた。一般入館者として展示作品を鑑賞するという、普段の行き方とは違って、学芸員の方の懇切な解説を伺いながら、収蔵庫等のファシリティ部門を参観できたことは、学芸員課程履修生にとって得難い体験となったにちがいない。年間をとおした実習の始まりに相応しい見学であった。

次に参加者の記した「見学レポート」の抜粋を掲載する。

◆見学レポート

E.K生

東京藝術大学大学美術館を見学して強く印象に残ったことは、搬入口、事務室、収蔵庫など美術館活動に必要な施設の使い易さが周到に計画されていることに加え、美術大学の美術館にふさわしい、美的な雰囲気かところどころに盛り込まれた設計がなされていることだ。具体的には、搬入口は一階にあるのが効率的であり、事務所は館全体のまさにセンターであり、館の中央に配されるべきである、といったことである。

美術館設立の経緯を窺った際、上野の山という堅固な立地のほかに、耐震構造を強化して館の安全性を高めたというお話があった。おかげで先の震災でも被害が最小で済んだということだった。昨今、地震の脅威をあらためて身近に感じるが多くなってきているが、文化的価値の高い資料を多く収蔵する美術館や、人の出入が激しい場所に不可欠な自然災害への備えというものが重要であることを改めて考えさせられた。

施設内の環境設定もおろそかにできない。空調設備は、藝大美術館では、美術品から遠い場所に置かれており、まさかの場合も安心である。最適な温度を保つ方法として温水と冷水を通管によつ



て循環させる様子も初めて見る事ができた。学校の講義では、水ではなくガス消火が行われると学んだが、ここでは窒素ガスの入ったボンベが並んでいた。フロンなどのガスとは違い、環境や人体に与える影響が少なく、比較的安価で安全に保管できるために窒素ガスを用いるのだそうだ。また液状ではなく、気化の状態で保存するのは、液体が与える作品へのダメージを極力回避するためであるというお話も大変勉強になった。

今回、館内を案内して下さった薩摩雅登教授に続いてフロアを進んで行くと、廊下が広く作ってあり開放感があることに気がついた。物品のスムーズな移動・運搬を想定して広い空間を確保した結果だとのこと。廊下は通路であると同時に、その広さゆえに、備品などの保管場所も兼ねているそうである。使用する機材もさまざまなので、手狭にならず、しかもすぐ使える場所があることは職員の方にとって貴重だと思った。

博物館の核となる作品を収める収蔵庫には頑丈な金庫扉が採用されていた。これはある程度予想していたことだが、意外に思ったのは、収蔵庫の扉が漆塗りで、化粧箱のように飾られていたことである。安全のためにシンプルなものというイメージが覆された。また階層ごとに微妙に異なったデザインが施され、一種の芸術作品のような香りを放っていた。梱包などの作業するための前室がとても広く作られており、作業のしやすさが想像された。梱包材料についてのお話は興味深かった。作品を国外に貸し出すときには、木製のケースを使用し、さらにペイントを施すそうである。色による識別が容易なことと、木が湿気を帯びることを防ぐ効果があるとのことである。

使われている備品にもこだわりがあり、一つ例をあげると照明で、ドイツのERCO社の製品が使われていた。高品質、高性能の照明ということだが、海外の人とわれわれ日本人とは、光の見え方、捉え方に違いがあるそうである。

このたび、東京藝術大学大学美術館を見学し、普段は目にするのでできない施設、設備を拝見し、学校の講義で学習したもろもろの名称と事物が一致し、より深い理解が得られたと思う。見学をとおして学んだことを復習しながら、学芸員の仕事や施設管理の方法について、再点検しようと考えている。当日、ご多用のなか案内いただいた薩摩雅登先生に心より御礼申し上げます。

■春学期の基礎実習は、美術資料、民俗資料の取り扱い、写真撮影の基本を中心に行われた（専任教員1名、兼任講師2名）。必要な基礎的修練は十分に尽されたと考えている。



◆夏季の学外実習

■夏季の学外実習は、以下の17館で行われた（順不同）。

石神井公園ふるさと文化館 上野の森美術館 佐野美術館 郵政博物館資料センター 千葉市立郷土博物館 渋谷区立松濤美術館 千葉市美術館 日本カメラ博物館 埼玉県立歴史と民俗の博物館 古河歴史博物館 野球体育博物館 高崎市タワー美術館 江戸東京博物館 みどり市岩宿博物館 草加市立歴史民俗資料館 家具の博物館 松戸市立博物館

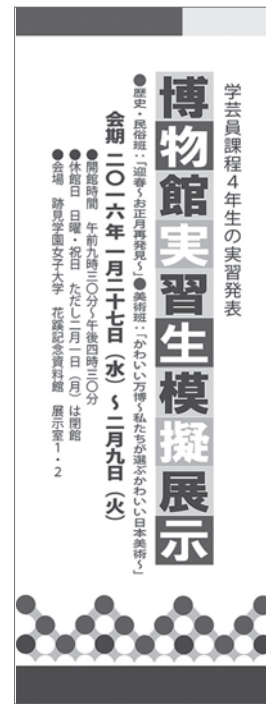


各館にはいつもながら懇切丁寧なご指導とご便宜を賜りました。あらためて厚く御礼申し上げます。

■秋学期は、夏季の学外実習で体得した事柄をふまえ、学期末の花溪記念資料館での模擬展示に向けて企画立案の作業にとり組む。履修者は、希望によって民俗・歴史班、美術班に分かれ、模擬展示の実施計画を練り上げていくことになるが、卒業論文提出の時期（12月中旬）が迫るなか、準備が順調に進まないことも稀ではない。時間との闘いを強いられるが、各人がアイデアを出し合い、工夫を加えながらオープンを迎えることになる。

博物館実習生模擬展示

会 期 平成28年1月27日(水)～2月9日(火)
 会 場 跡見学園女子大学花蹊記念資料館 展示室1・2
 開催時間 9:30～16:30
 日曜・祝日は休館
 主 催 跡見学園女子大学花蹊記念資料館
 入館無料
 入館者数 267名



I 「迎春～お正月発見～」 展示室1

担当学生名 有馬 杏奈 岩崎 真優 大島 紗英 柏瀬 翼
 川崎 里紗 久米谷りさ子 近藤美之梨 佐藤 遥香
 野尻 望生 山岸 茜 米田 陽香

展示趣旨

あけましておめでとうございます。

皆さんはお正月について説明できますか? 門松を飾る理由は? おせち料理に込められた思いは? 絵馬の持つ意味とは? なぜ羽子板で遊ぶのか?

現在、その形式を残しつつも意味を知らずに実施しているものが多いですね。一説には、お正月は元来「神祭り」の行事として行われていました。年神様を迎え、神に一年の幸せを願う「神祭り」としての位置づけでした。つまり、お正月は、神と人との行事だったのです。

本展示では「飾る」「遊ぶ」「食べる」「詣でる」の四つの切り口からお正月を再発見していきます。「飾る」では神の迎え方、「食べる」では食事に込められたい、願ひ、「詣でる」では神への挨拶、「遊ぶ」ではハレの日を楽しむ人の知恵を紹介します。



II 「かわいい万博～私たちが選ぶかわいい日本美術～」 展示室2

担当学生名 有路 芙蓉 加藤奈那子 金子 恵美 田口奈々美 東西田陽子

展示趣旨

私たち日本美術チームの展示テーマは、「かわいい」です。一口にかわいいと言っても、そこには様々なニュアンスが含まれます。

人それぞれ、かわいいと思うタイプが異なります。そこで、今回私たちは、それぞれが可愛いと感じた作品を持ち寄り、その多種多様な様子を展示で表すことにしました。

私たちが選んだ作品は、三つのテーマに分けて展示されています。最初のテーマは「ほのぼの」—主に、穏やかな線で描かれた素朴な作品が展示されています。次のテーマは「きらきら」—色鮮やかで、デザイン的に優れた作品が多く含まれています。最後のテーマは「わらわら」—言葉通り、小さなものが集まりわらわらとした様子が愛らしい作品を見ることができます。最後に、三つのテーマによる展示とは別に、私たち五人が最も気に入っている作品を一つずつ選び展示する「一押しコーナー」があります。それぞれの趣味や好きなタイプが、最も反映されたコーナーになっています。

全体を通して、かわいいと誰もが頷くような作品ばかりではなく、少々理解に苦しむ作品もあると思います。それは、完璧を目指した西欧や中国の美術と異なり、歪みに美を見出した日本美術独特の美的感覚と通じるでしょう。そういったところが、日本美術の魅力でもあるのです。日本美術のゼミナルで学び、王道作品から少々マニアックなものまで知り尽くした私たちが選んだかわいい日本美術。それらを鑑賞することで、多彩な側面を持つ日本美術の奥深さを感じることができる、個性豊かな展示となっております。どうぞ、最後まで、ごゆるりとお楽しみくださいませ。

